へ13
3740
63

門 へ13
3740
63

小倉美濃守様世代鏡

三十二分篇之巻

為永春水作

歌川國貞画

甲子新春

唐の太宗言へる事あり。銅をもて鏡となして衣冠を正し。古をもて鏡となして興廃を知るべし。人を以て鏡となして譬ふ粗あらん。然れども世の人笑ふ多けれども。自振直せと言ふ諺ふ粗あらん。然れども世の人笑ふ多けれども。自振を直さんとする者ハ尠し。紙ひ万巻の書を読むとも。文字の知り行ひあるべし。无智劣らんとすれば果敢なし九三四子も童蒙心と例のごとく加々見ふ時代るせりぬを演ず。

文久第四
甲子春

為永春水

江ノ嶋眺望之圖

岩本院

鎌倉の内管領

弁天本社

小町ヶ崎

永尾景好

永尾の夫人雪姫

稲村ケ崎
大佛
藤浪春辰

七里ケ濱
極楽寺
侍女折鬼

差
如助

流
萩
豊
道
若

加
川

主馬頭
藤川
稲

艶
稲

風流画半切　越前奉書紙　伊豫奉書紙
○猫もの　○うんもん　はり切

注齋百図　全
洞郁画

上製　南蛮みち道

忠臣義士銘々傳
一猛斎芳虎画

目録色

当年新板　寿ぶ六歌仙

東海道名所図会　若林堂蔵